

第197回 中小企業の景気動向調査

調査時点	2023年8月下旬～9月上旬
調査対象期間	2023年7月～8月実績・9月予想値 2023年10月～12月見通し
調査対象企業	当金庫お取引先1, 688社(大阪府内ならびに尼崎市)
回答企業数	641社 (業種・従業員数不明4社)
回答率	37.9%
調査方法	調査票郵送による回答、インターネットによる回答
分析方法	DI(Diffusion Index)を中心に分析 DIとは、売上、収益、価格、数量について、「増加」(上昇)と回答した企業割合から「減少」(低下)と答えた企業割合を差し引いた値 〔例: 売上DIの場合〕 売上が「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いて求めます。

売上が「増加」した企業
45%

「変わらず」
20%

売上が「減少」した企業
35%

$$45\% - 35\% = 10 \quad \longleftarrow \text{売上DI}$$

アンケート回答企業の内訳

業種別 従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計 構成比
1～4	36	27	38	4	27	19	0	36	187	29.2%	29.2%
5～10	59	22	10	5	39	14	4	24	177	27.6%	56.8%
11～20	66	16	6	2	20	9	6	3	128	20.0%	76.8%
21～30	23	4	1	4	5	5	7	1	50	7.8%	84.6%
31～50	16	8	2	2	3	3	2	2	38	5.9%	90.5%
51～100	12	4	4	2	4	7	4	2	39	6.1%	96.6%
101～	6	4	2	0	2	1	3	2	20	3.1%	99.7%
人数不明	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0.3%	100.0%
計	218	86	64	19	100	58	26	70	641	100.0%	
構成比	34.0%	13.4%	10.0%	3.0%	15.6%	9.0%	4.1%	10.9%	100.0%		

”

総合

一進一退 足踏み状態 年末期待

売上D Iは-10.2（前回比△12.9ポイント）、収益D Iは-20.0（前回比△14.7ポイント）となり、前回調査時の7-9月期の見通しと比べ、売上D Iは15.7ポイント、収益D Iは13.0ポイントそれぞれ下振れしました。

売上D Iは、小売業、飲食業、運輸業を除き前回比下落し、特に不動産業が-23.2（前回比△20.0ポイント）、製造業が-14.8（前回比△20.8ポイント）、建設業が-10.0（前回比△16.5ポイント）、サービス業が-3.5（前回比△10.6ポイント）と落ち込んでいます。

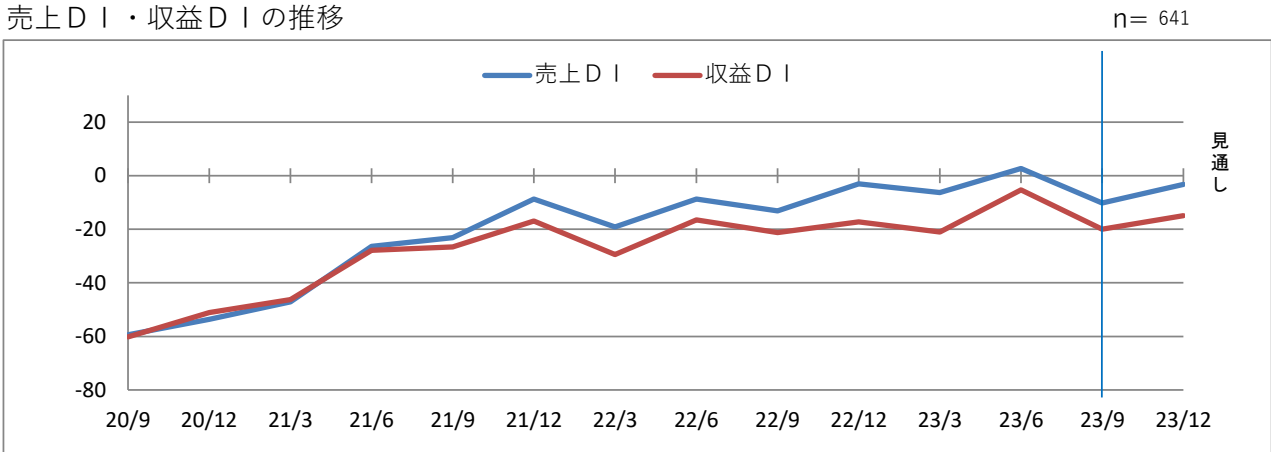
販売価格D Iは、19.8（前回比△8.8ポイント）、販売数量D Iは-17.0（前回比△12.4ポイント）となり、販売価格だけでなく販売数量にもブレーキがかかりました。

2023年10-12月期は、売上D Iが6.9ポイント、収益D Iが5.1ポイントそれぞれ上昇し、販売価格D Iが3.0ポイント下落、販売数量D Iが9.0ポイント上昇すると予測し、販売価格引上げにはブレーキがかかるものの、年末商戦に向け大きく期待しています。物価の上昇が依然続くなか、節約志向や生活防衛意識は一層高まり販売価格の引上げは難しく、今後の収益確保が懸念されます。

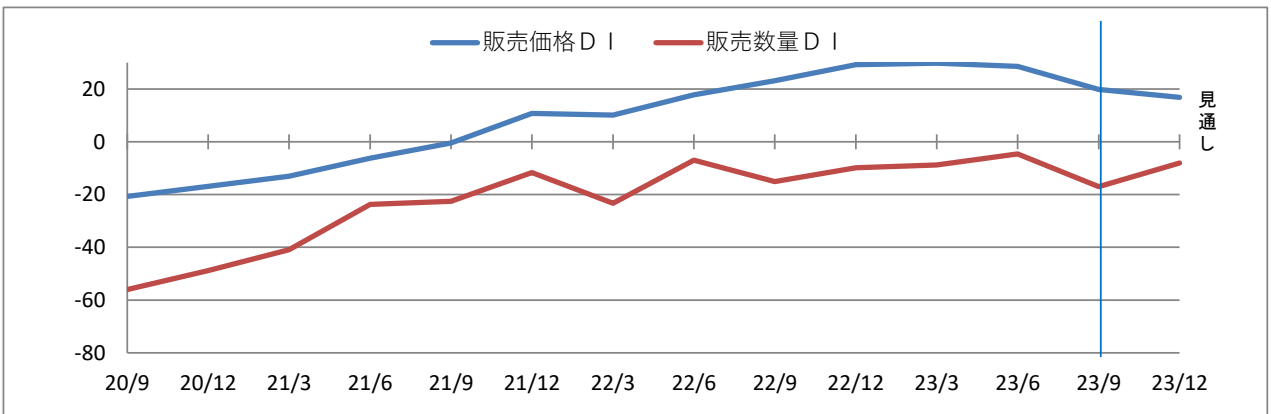
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が73.5%、「売上停滞減少」が51.8%、「一般経費増大」48.2%、「人手不足」が37.9%となりました。特に「人手不足」は、建設業が59.6%、飲食業が57.9%、サービス業が54.5%と高止まりし、深刻な影響を受けています。

設備投資は「実施中」11.3%（前回比+0.7ポイント）、「予定あり」13.5%（前回比+0.9ポイント）の合計24.8%となり、堅調な推移が続いています。

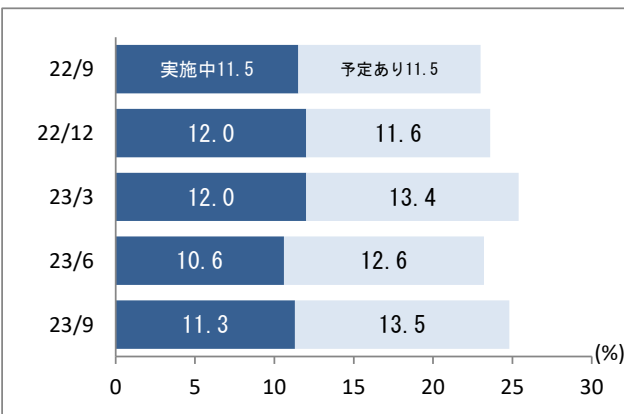
売上D I・収益D Iの推移



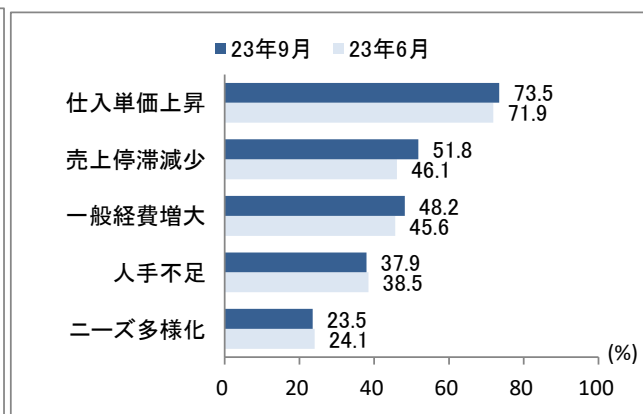
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



製造業

受注量減少 深刻化する人手不足

売上D Iは-14.8（前回比△20.8ポイント）、収益D Iは-24.9（前回比△18.8ポイント）となり、前回調査時の7-9月期の見通しと比べ、売上D Iは22.4ポイント、収益D Iは14.2ポイントそれぞれ下振れしました。

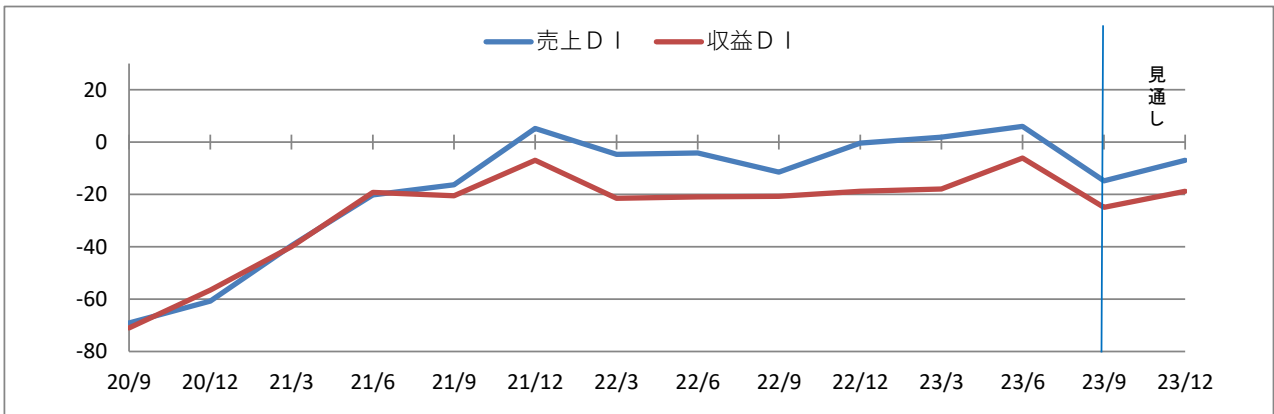
2023年10-12月期は、売上D Iが7.8ポイント、収益D Iが6.1ポイントそれぞれ上昇し、販売価格D Iが5.1ポイント下落、販売数量D Iが6.9ポイント上昇すると見込んでおり、年末に向けた販売数量の増加に期待しています。仕入単価の上昇は続いています。これ以上の販売価格の引上げには躊躇していると思われます。自動車金型製造業では、EV自動車向け金型の受注が増加する企業も出てきました。中小も国内需要の回復に合わせて大手と同じ堅調推移に向かうことが期待されています。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が82.5%と依然最大で、材料やエネルギーコストの上昇は依然として根強い問題点ですが、「人手不足」が36.4（前回30.1%）6.3ポイント急上昇し、特に「若年者の採用が難しい」という声も聞かれます。販売価格の引上げが困難な中、人員確保に向け一層難しい舵取りを強いられています。また、売上が低迷する中、販路拡大に向け「ECサイトの構築」を検討する企業も一部出てきています。

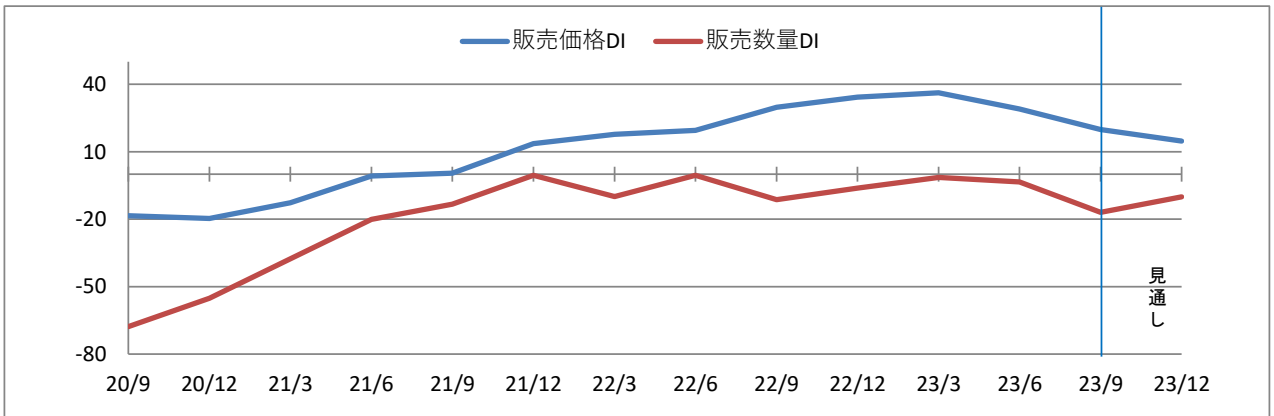
設備投資は「実施中」が16.7%（前回比+2.3ポイント）、「予定あり」が14.9%（前回比△3.0ポイント）で合計31.6%となり、様々な問題を抱える中でも堅調に推移しています。

売上D I・収益D Iの推移

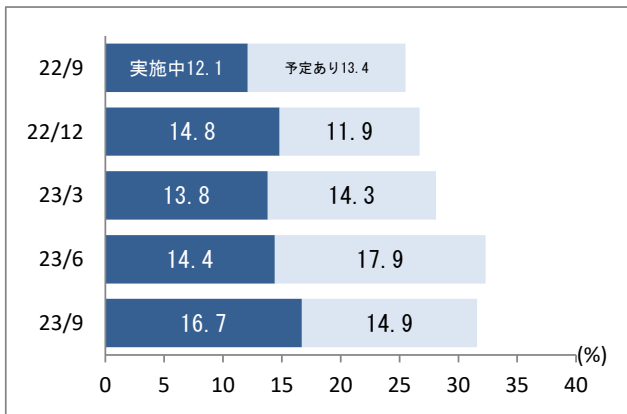
n= 218



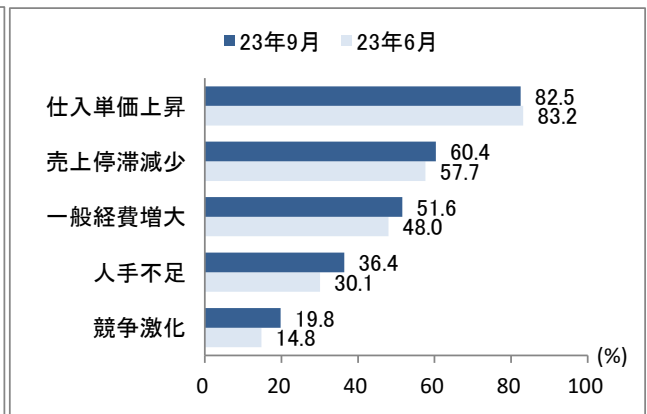
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



卸売業

急ブレーキ 天候不順 人流・物流停滞

売上D Iは-4.7（前回比△16.9ポイント）、収益D Iは-21.0（前回比△18.6ポイント）となり、前回調査時の7-9月期の見通しと比べ、売上D Iは14.4ポイント、収益D Iは21.0ポイントそれぞれ下振れしました。

インバウンド需要の回復にも支えられ回復基調な上にお盆休みもありましたが、台風による影響で人流や物流停滞の影響が大きく影響したものと見られます。

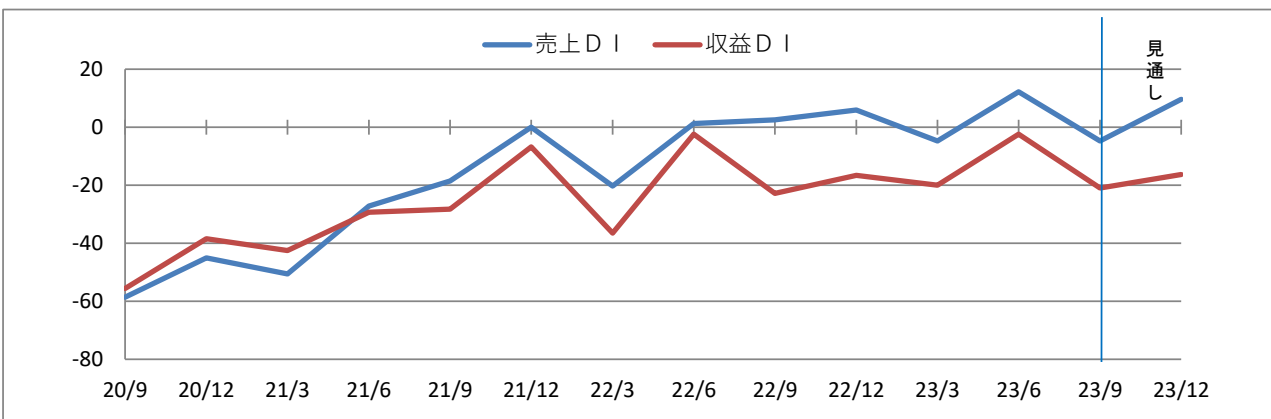
2023年10-12月期は、売上D Iが14.3ポイント、収益D Iが4.7ポイントそれぞれ上昇し、販売価格D Iが0.8ポイント下落、販売数量D Iが13.1ポイント上昇すると見込んでいます。年末に向け販売数量増加への期待は高まるものの、販売価格の引上げには慎重な姿が伺えます。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が77.4%（前回比+1.5ポイント）、「売上停滞減少」が61.9%（前回比+7.7ポイント）、「一般経費増大」が44.0%（前回比+1.8ポイント）と問題点として定着していますが、「ニーズ多様化」が36.9%（前回+12.8ポイント）に急上昇し、コロナ後に多様化する顧客ニーズへの対応も迫られています。

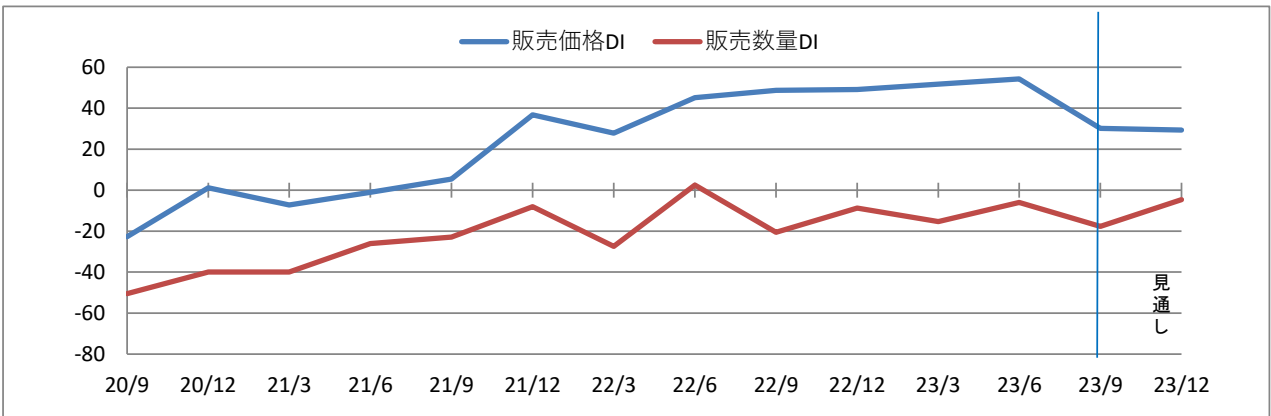
設備投資は「実施中」が10.8%（前回比+3.3ポイント）、「予定あり」が16.9%（前回比+1.9ポイント）で合計27.7%となり、設備投資意欲は堅調に推移しています。

売上D I・収益D Iの推移

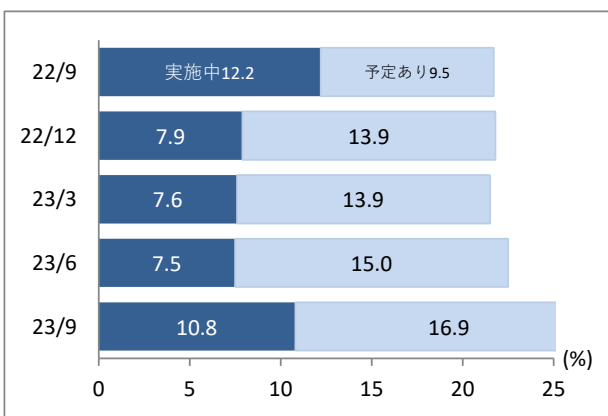
n= 86



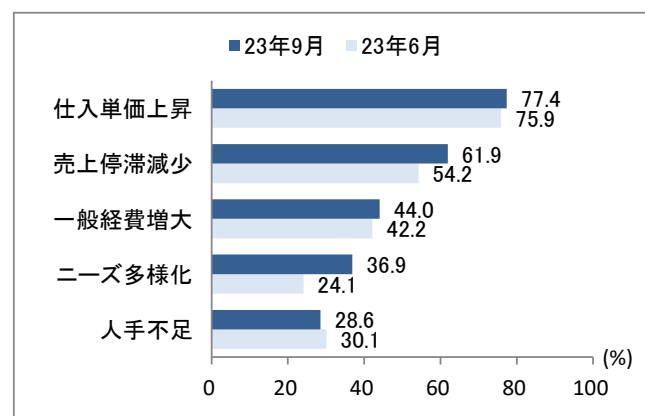
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



小売業

年末期待 売上DIプラスあと一歩

売上DIは-10.9（前回比+5.8ポイント）、収益DIは-20.3（前回比+3.7ポイント）となり、前回調査時の7-9月期の見通しと比べ、売上DIは10.9ポイント、収益DIは3.7ポイント下振れしています。

2023年10-12月期は、売上DIが4.7ポイント、収益DIが1.6ポイント上昇すると予想し、年末商戦への期待は高まっています。インバウンド需要は回復するものの、大手に比べ中小ではその恩恵は小さく、生活必需品や電気代などエネルギー価格の上昇は先が見えず、家計の節約志向を一層高め苦戦する事も考えられます。

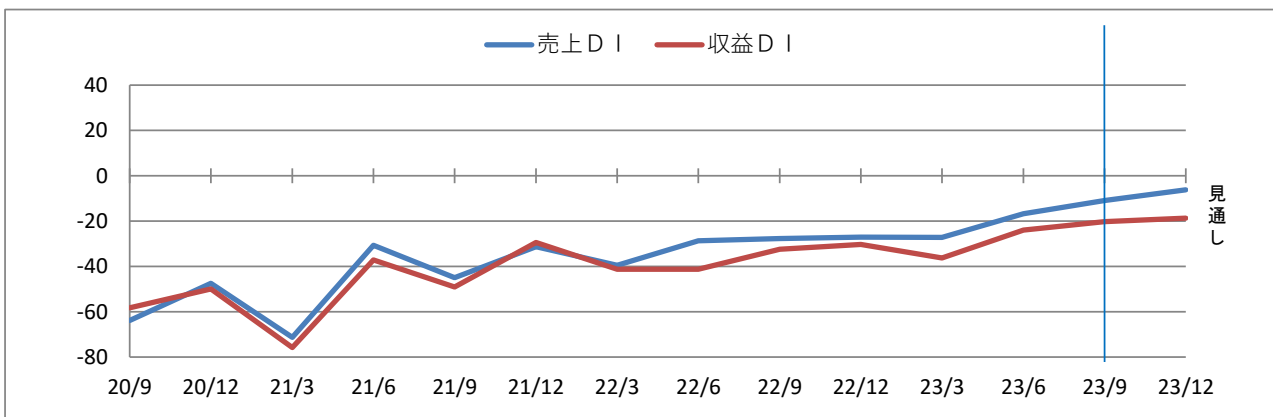
販売価格DIは39.0（前回比+5.7ポイント）、販売数量DIは-23.4（前回比△4.9ポイント）となり、販売価格の引上げが売上回復の主要因です。

経営上の問題点は、「仕入単価の上昇」が68.8%（前回比+4.6ポイント）、「売上停滞減少」が50.0%（前回比+8.5ポイント）、「一般経費増大」が42.2%（前回比+8.2ポイント）となり、上位の問題点は固定され、さらに強まっています。

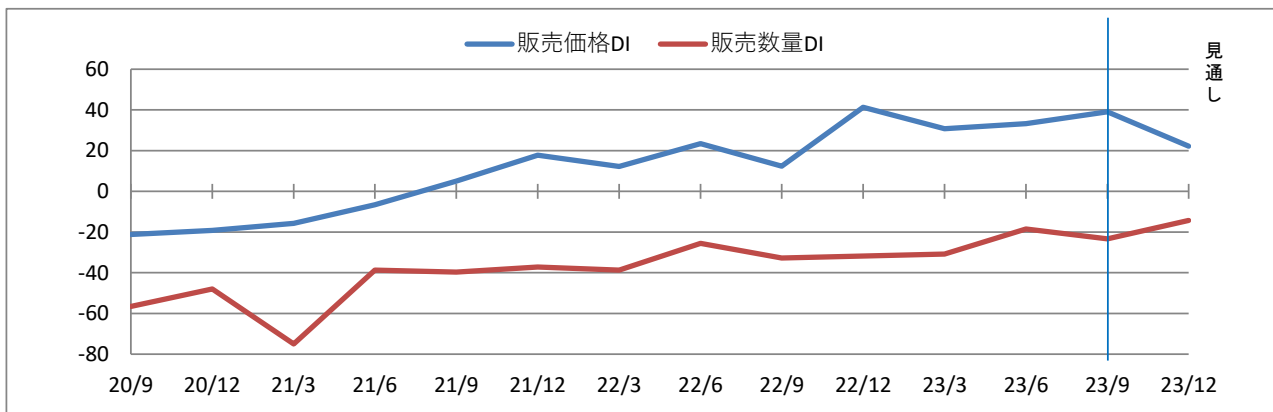
設備投資は「実施中」が8.2%（前回比+2.5ポイント）、「予定あり」が8.2%（前回比+2.5ポイント）で合計16.4%となり、設備投資意欲は依然低調に推移しています。

売上DI・収益DIの推移

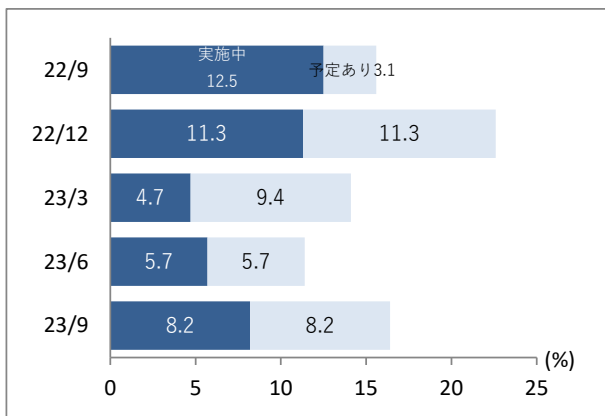
n = 64



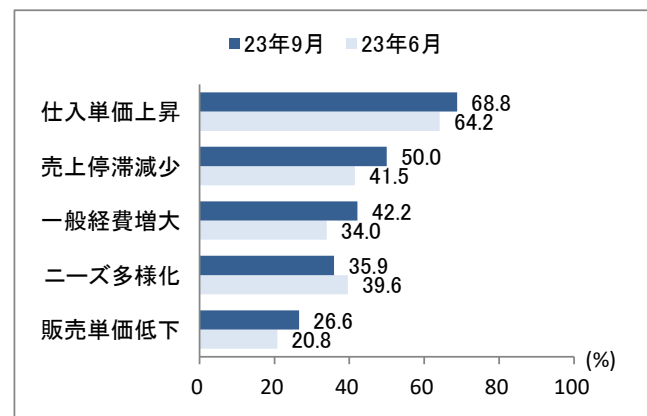
販売価格DI・販売数量DIの推移



設備投資動向



経営上の問題点



売上D Iは42.1（前回比+17.1ポイント）、収益D Iは10.5（前回比△2.0ポイント）と、前回調査時の7-9月期の見通しと比べ、売上D Iは17.2ポイント上振れし、収益D Iは2.0ポイント下振れました。

販売価格D Iは26.3（前回比△17.5ポイント）、販売数量D Iは-5.3（前回比+1.3ポイント）となり、売上回復の主な要因は、販売数量の増加です。

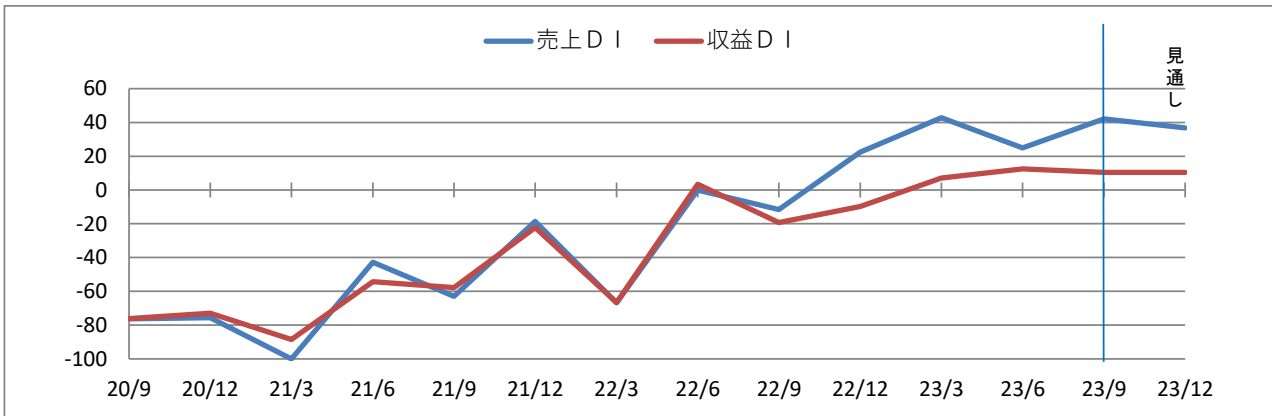
2023年10-12月期は、売上D Iが5.3ポイント下落、収益D Iは±0ポイント、販売価格D Iは5.3ポイント、販売数量D Iは21.1ポイント上昇すると予想し、行動制限解除後はじめての年末に向け、忘年会の増加など多くの期待が寄せられています。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が89.5%（前回比△10.5ポイント）、「一般経費増大」が57.9%（前回比△17.1ポイント）、「人手不足」が57.9%（前回比△4.6ポイント）と依然高水準で推移し、業況は回復基調にあるものの、多くの根強い問題点への対応に迫られています。「弊社において一番の関心事は原材料費の高騰です。業種柄価格転嫁が消費者マインドに直結しますので、慎重にならざるを得ません」という声も聞かれました。

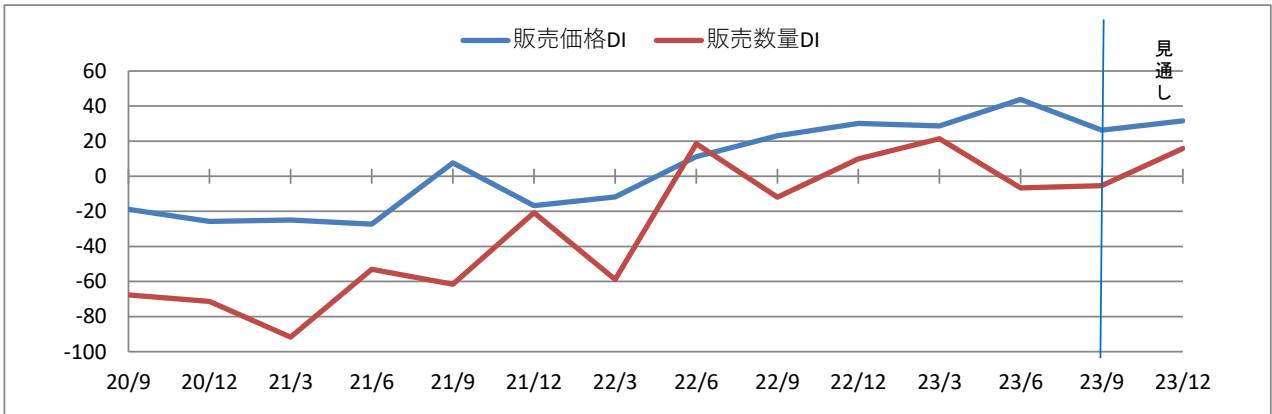
設備投資は「実施中」が15.8%（前回比+15.8ポイント）、「予定あり」が26.3%（前回比+19.6ポイント）で合計42.1%となり、設備投資意欲は高水準で推移しています。

売上D I・収益D Iの推移

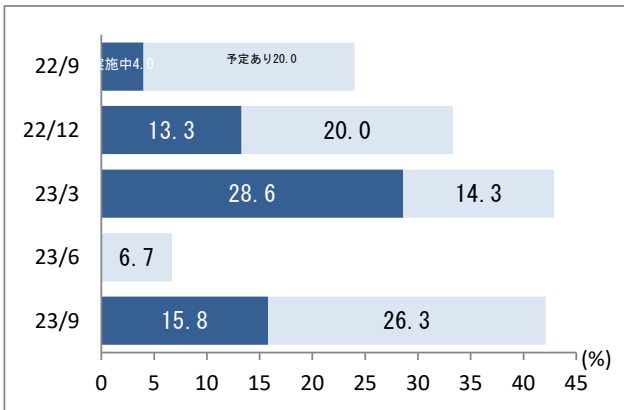
n= 19



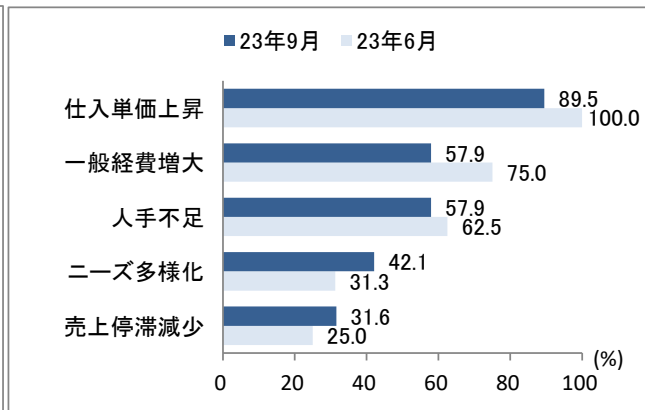
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



売上D Iは-10.0（前回比△16.5ポイント）、収益D Iは-16.2（前回比△19.4ポイント）と大きく下落しました。前回調査時の7-9月期の見通しと比べ、売上D Iが17.6ポイント、収益D Iが19.4ポイントとそれぞれ下振れしています。

販売価格D Iは9.1（前回比△16.2ポイント）、販売数量D Iは-7.1（前回比△16.3ポイント）とそれぞれ下落し、価格・数量とも低調に推移しています。

大阪の公共工事は、件数、請負金額ともに対前年比増加傾向にあります。請負価格が低い公共工事からは撤退する動きが見られます。生活用品など依然として物価の上昇は続いており、節約志向や生活防衛意識の高まりから、見通しは厳しく考えています。

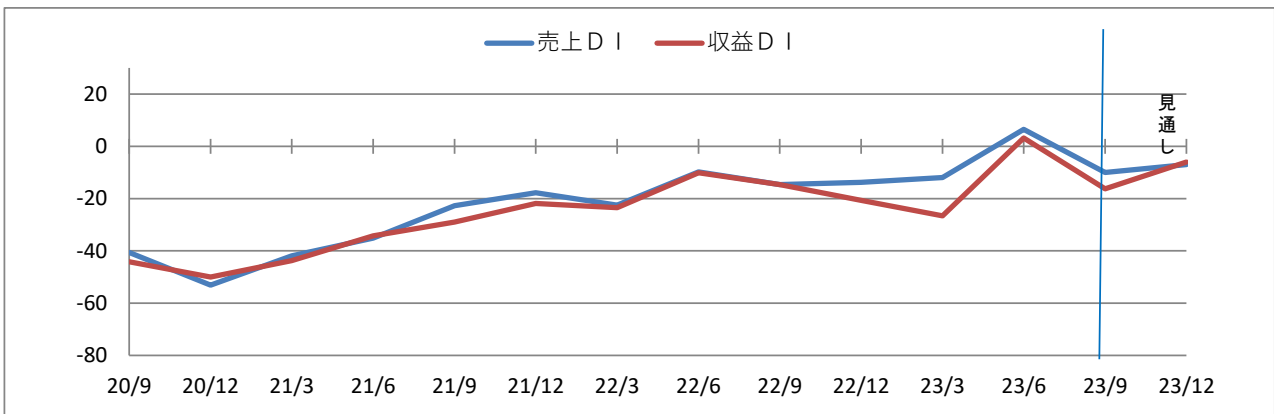
2023年10-12月期は、売上D Iが3.0ポイント、収益D Iが10.2ポイントとそれぞれ上昇すると予想しています。中規模企業と小規模企業では業況の二極化が進んでいます。

経営上の問題点は、依然として「仕入単価上昇」が72.7%（前回比+6.4ポイント）が最大の問題点ですが、「人手不足」が59.6%（前回比△3.4ポイント）と高止まりし、人手不足が受注に影響を及ぼすことが懸念されます。

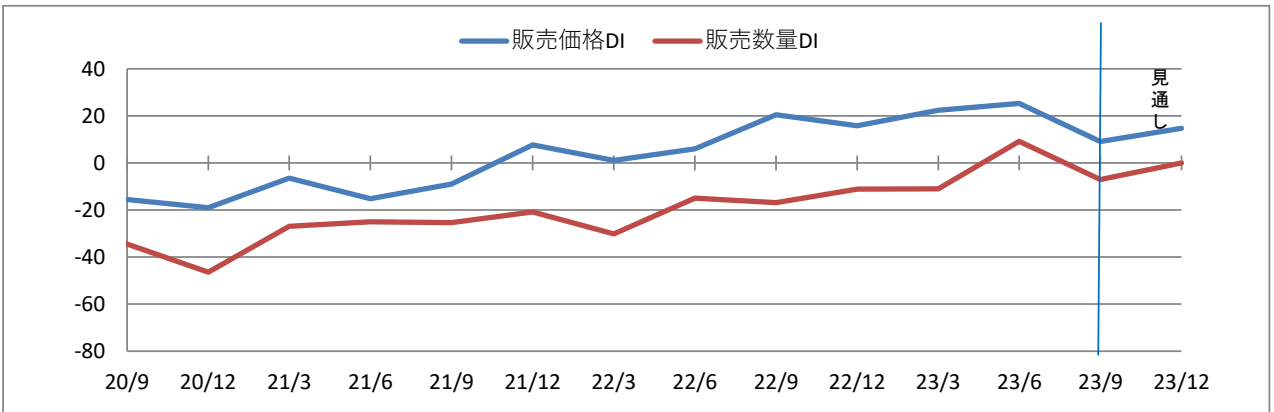
設備投資は「実施中」が8.2%（前回比△0.5ポイント）、「予定あり」が7.1%（前回比+1.7ポイント）で合計15.3%となり、設備投資意欲は大きく後退しています。

売上D I・収益D Iの推移

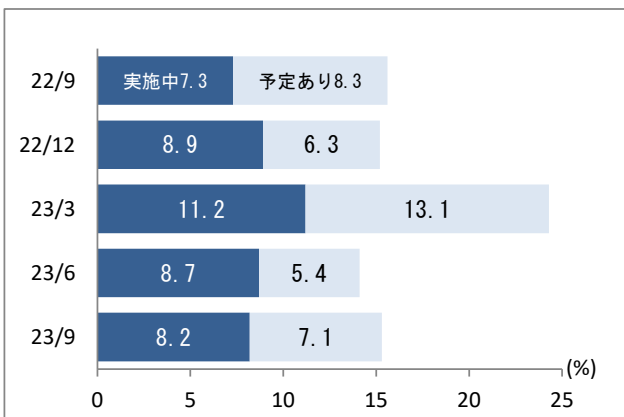
n= 100



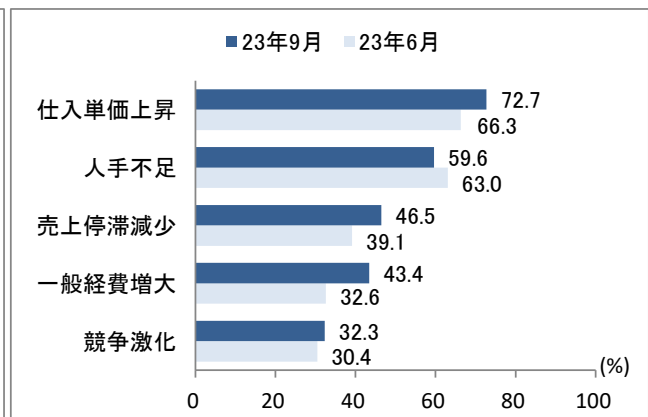
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



サービス業

販売数量減少 乗り切れない年末見通し

売上D Iは-3.5（前回比△10.6ポイント）、収益D Iは-6.9（前回比△4.0ポイント）と大きく後退しました。前回調査時の7-9月の見通しを売上D Iは15.1ポイント下振れし、収益D Iは0.4ポイント上振れしています。販売価格D Iは10.7（前回比+0.8ポイント）、販売数量D I-11.1（前回比△6.1ポイント）となり販売数量の減少が売上の低迷に繋がっています。お盆に直撃した台風など天候不順による影響は大きかったと思われます。

2023年10-12月期は、売上D Iが1.7ポイント下落し、収益D Iは1.8ポイント上昇すると予想しています。長期化する物価やエネルギー価格の高騰は、顧客の節約志向に繋がることが予想され、年末に向け慎重な姿勢が見られます。

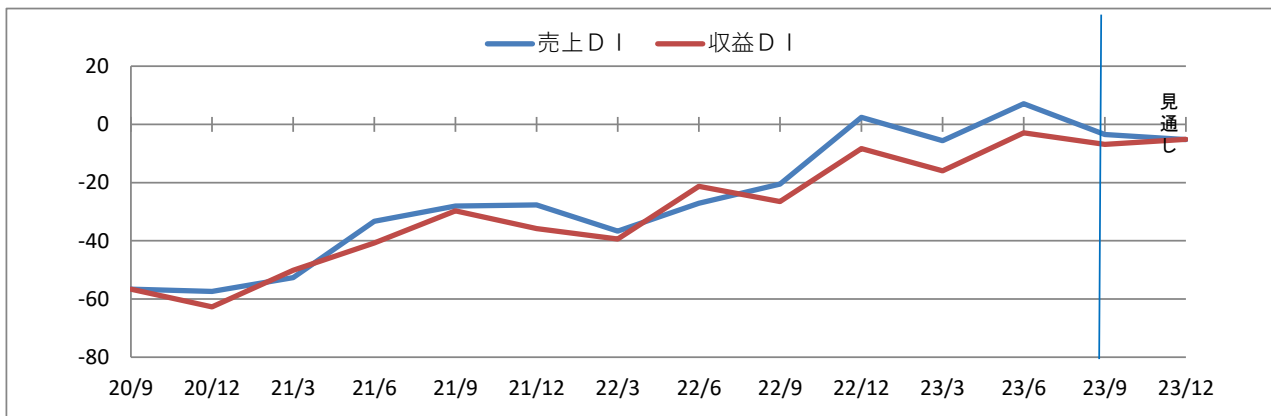
経営上の問題点は、「人手不足」が54.5%（前回比+3.8ポイント）と最大となり、深刻化しています。また、「一般経費増大」が54.5%、「仕入単価上昇」が34.5%と続き、多くの経営課題への対応にも迫られています。

今後、消費者の節約志向が強まることが予想され、販売価格の引上げによる従業員給料の引上げも難しく、「人手不足」がさらに深刻化することが懸念されます。

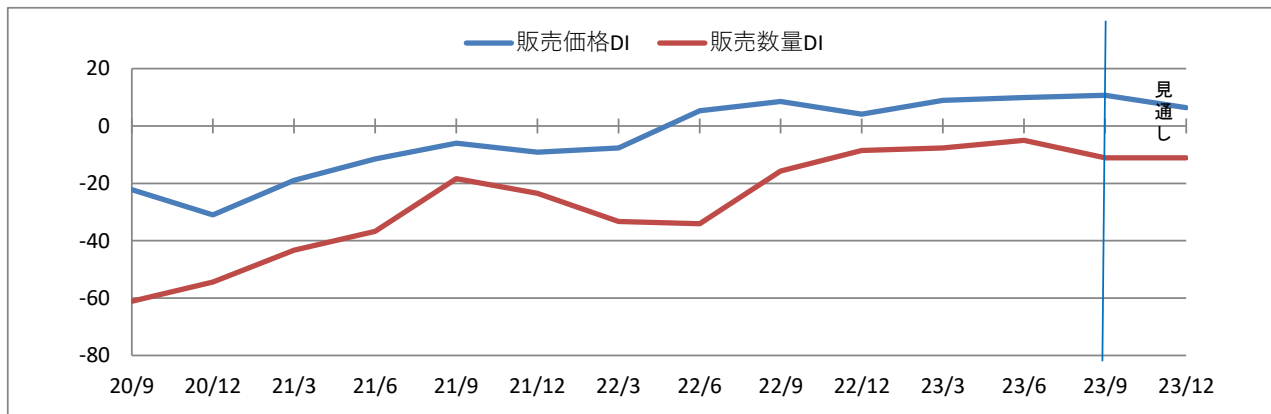
設備投資は「実施中」が5.2%（前回比△5.6ポイント）、「予定あり」が10.3%（前回比△3.5ポイント）で合計15.5%となり、設備投資意欲は後退しました。

売上D I・収益D Iの推移

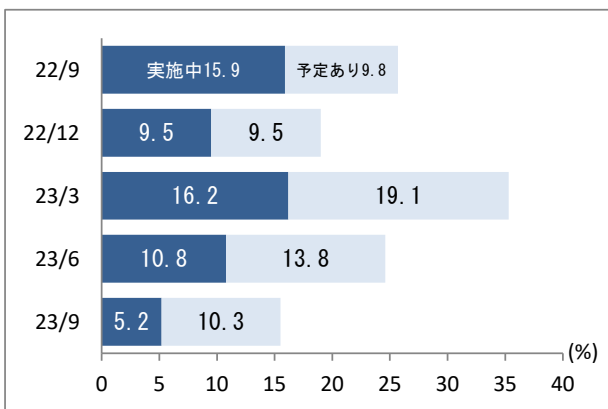
n= 58



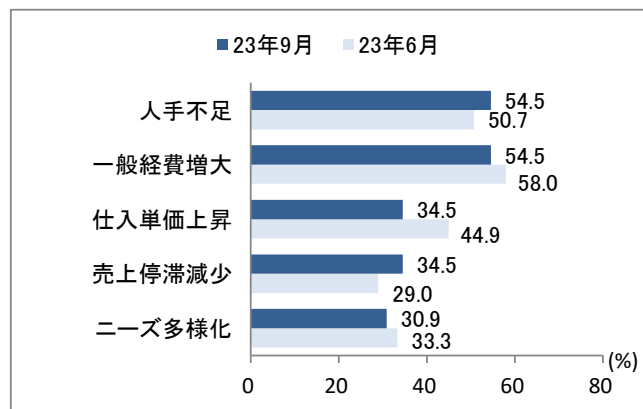
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



運輸業

燃料価格高止まり 深刻なドライバー不足

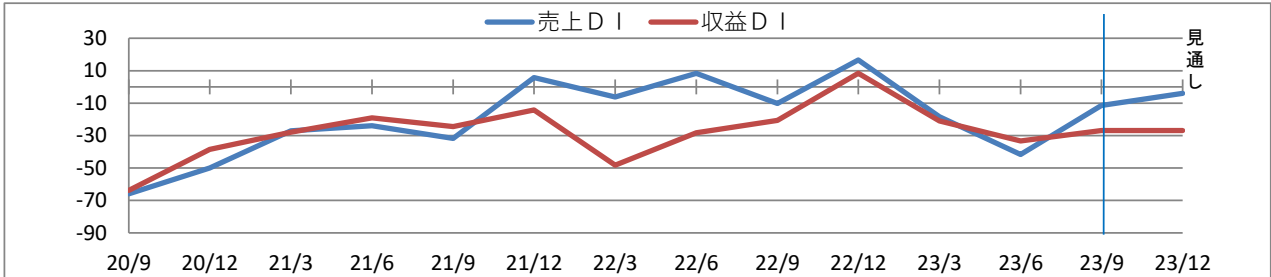
売上D Iは-11.5（前回比+30.2ポイント）、収益D Iは-26.9（前回比+6.4ポイント）と大幅に回復しています。

前回調査時の7-9月の見通しから、売上D Iは5.1ポイント上振れ、収益D Iは10.2ポイント下振れし、2023年10-12月期は、売上D Iが7.6ポイント上昇し、収益D Iは±0.0と予想しています。

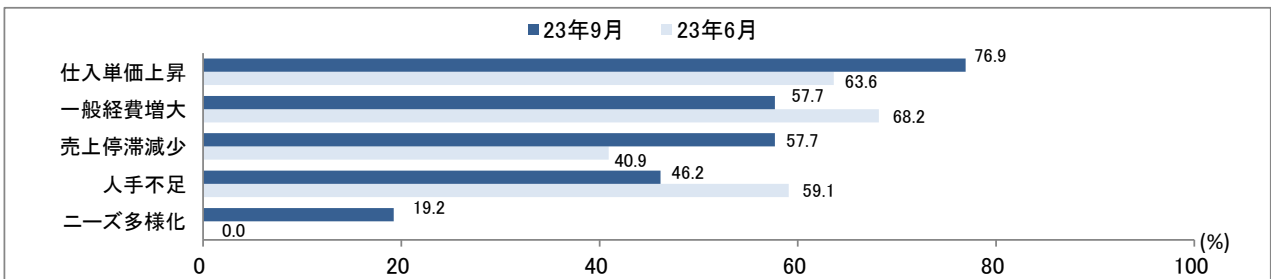
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が76.9%に急伸し、「人手不足」が46.2%と根強い問題点として定着しています。「人手が足りない上に、価格を上げたら仕事が減った」という声も聞かれ、2024年問題への対応もあり、厳しい状況が続きそうです。

売上D I・収益D Iの推移

n= 26



経営上の問題点



不動産業

高すぎる物件 金利上昇気配 購入意欲後退

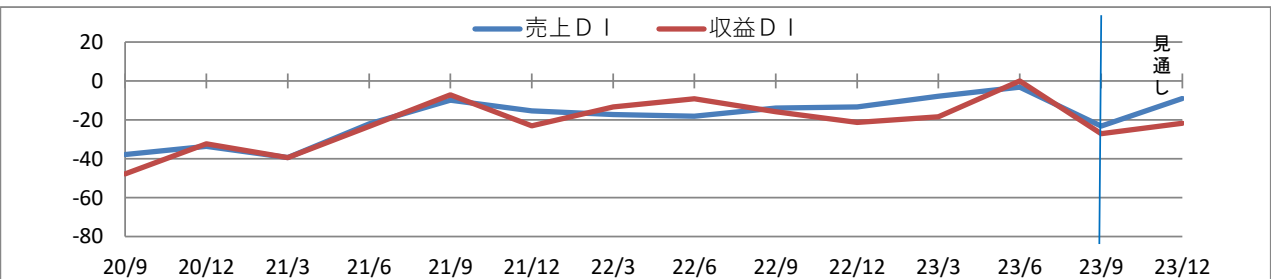
売上D Iは-23.2（前回比△20.0ポイント）、収益D Iは-27.1（前回比△27.1ポイント）とそれぞれ下落し、前回調査時の7-9月期の見通しから売上D Iは15.1ポイント、収益D Iは14.2ポイントそれぞれ下振れました。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が70.6%となり、物件価格の高止まりが続いています。

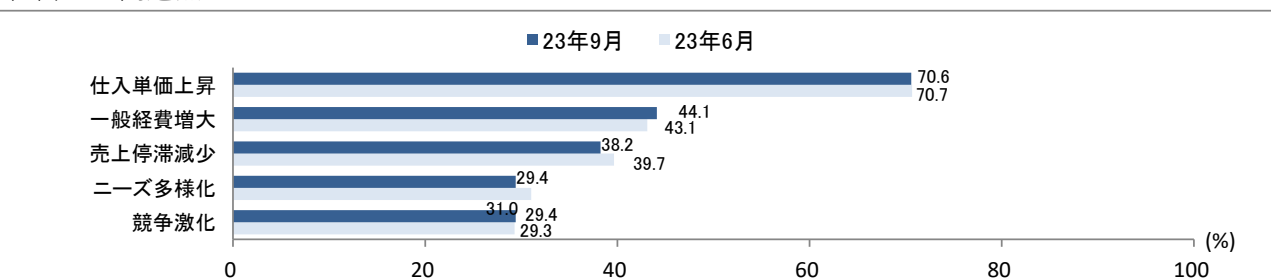
また、国内金利の上昇が予測されるなか、顧客が物件購入に踏み切りづらくなっています。

売上D I・収益D Iの推移

n= 70



経営上の問題点

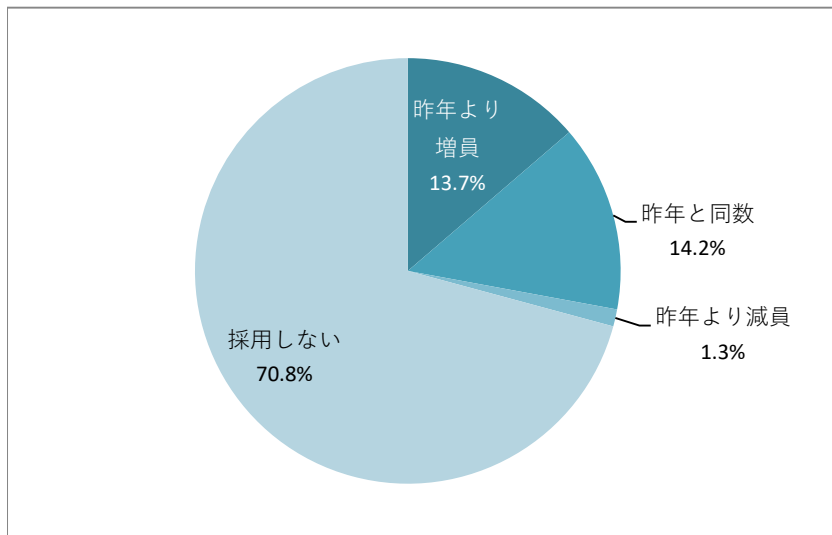


来春の採用について

採用(昨年比増員)予定増加

来年度の雇用動向

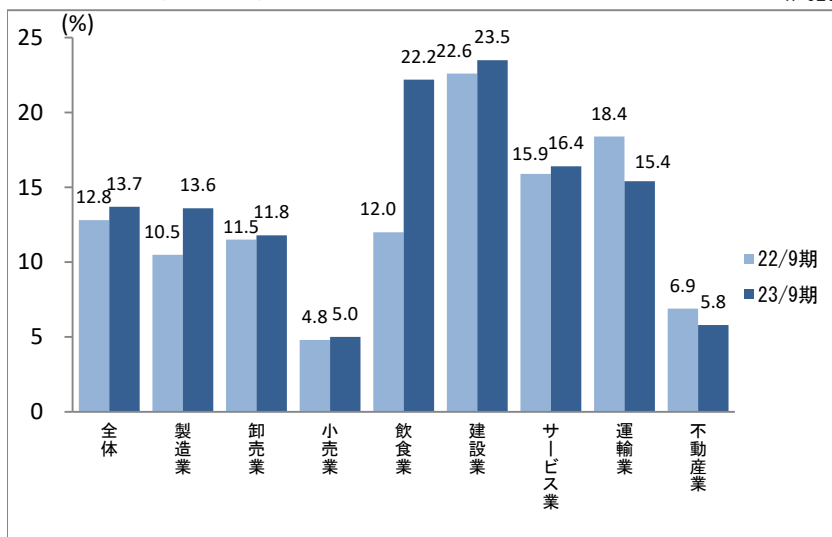
n=626



「採用する」は29.2%、「採用しない」は70.8%となり、採用に前向きな企業が前年(27.2%)より増加しました。その内訳では、「昨年より増員」は13.7%(前回比+0.9ポイント)、「昨年と同数」は14.2%(前回比+1.7ポイント)、「昨年より減員」は1.3%(前回比△0.6ポイント)となり、増員を考える企業が増加しています。人手不足を背景に、人材確保に懸命な企業が増加しています。

増員予定(業種別)

n=626

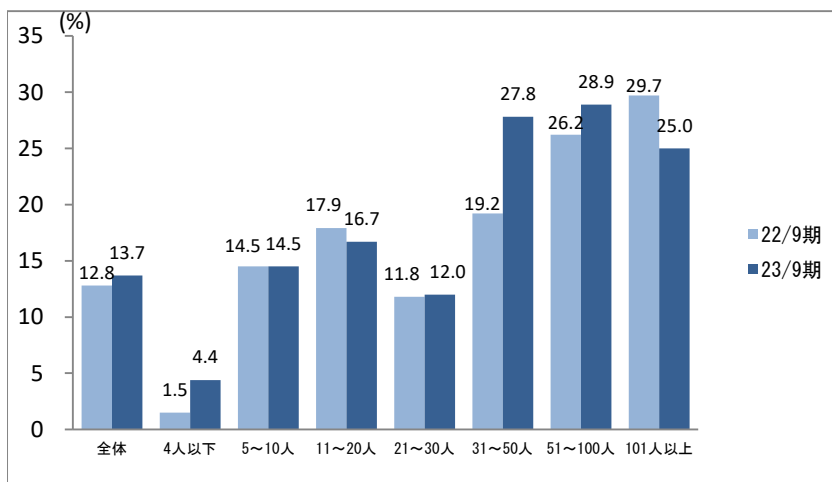


「昨年より増員」と回答した企業を業種別に見ると、建設業が23.5%(前回比+0.9ポイント)、飲食業が22.2%(前回比+10.2ポイント)、サービス業が16.4%(前回比+0.5ポイント)と上位を占めました。

これらの業種では、経営上の問題点として人手不足感は深刻であり、今後の事業継続のため、採用に積極的です。

増員予定(従業員規模別)

n=626



「昨年より増員」と回答した企業を従業員規模別に見てみると、特に「51~100人」が28.9%(前回比+2.7ポイント)、「31~50人」が27.8%(前回比+8.6ポイント)と大きく上昇し、従業員数が多い企業ほど増員予定が増加する傾向があります。